



アメリカ便り

(谷藤正三君第2信)

12月中旬 Los Angeles を出発してから Arizona の沙漠を通り、インディアンの珍しい風俗を見ながら Oklahoma City にたどりつき、12月の末には Denver に滞在した。この両地では主として turnpike の現場を見に行つた。金の唸つているような California の贅沢な、しかも Strict な示方書の仕事を思う存分見せつけられた後だつたので、一寸仕事ぶりが粗くて余り面白くなかつた。(勿論我国とは桁は違うが)

沙漠と平原ばかり眺めて疲れた眼に Colorado の Rocky 山脈が白雪を載っている美しい景色を見たときにはほつとした気持だつた。

乾燥した空気を通して眺めるアメリカの最高峰の山々の魅力は、何もはるばる日本まで観光で御座居に行く必要もないように思われる。

こゝで観光に興味を持たれる方々に一言、ゴルフ場も、享楽設備も要らないから、まず道路を舗装して、ホテルを建て、途中の町に(ドライブで3時間置き位に)綺麗な喫茶店(勿論水洗便所)を作れば沢山だと申上げたい。後は最大限度に日本の風物を残しておくことだ。恐らく日本まで行つてゴルフを楽しむ観光客はなかるうし、彼等にそんな必要はない。又経済を忘れた呑気な観光などやりそうにも思われぬ。出来るだけ日本的であることが必要にして最大の条件であろう。(衛生設備を除いては)

さて大晦日に Washington D. C. に入り、第2週から1週間続いた National Research Council の Highway Research Board の全国大会に出た。5部会に分れて提出論文 60 題以上、夜も大体早くて10時迄かかり全く参つてしまった。National Research Council の中で特に道路だけが Research Board として大きな部を持つていることは、アメリカの道路がかくも熱心に研究し続けられる一因を作つている。日本のように道路など誰でも出来るといつたような考えは毛頭ない。

この部会で、何処に一体砂利道があるのかと云いたくなるようなこの国で、砂利道の維持修繕の研究部があり、結構種々のテーマが出て問題になつているのも面白いと思つた。

New York ではもう道路も仕事仕舞だらうと思つていたら Park Way, Express Way をどんどん造つていけるのには眼を廻した。変つているのはこの都市計画の Park には Parking Place が殆んどない。世界一の自動車の動いているところで、折角の Park に車を置かせないとは誠に解せない話なので聞いてみたら、自動車でなど来て貰つては困るのだそう。附近の人々の散歩のために作るの、違つたところに行きたかつたら地下鉄かバスにしてくれとのこと、自動車で来るのなら 80 哩先にいくらも作つてあるから市内の Park などで呑な遊び方をするなということらしい、River-side Park Way など 30 年もかゝつてこつこつと仕上げている気長さにも感心する。

夜通しの車の音であまり騒々しいので1週間で逃げて出し Boston に行つた。さすがは MIT だけあつて非常に Practical な仕事をしながら考え方はとても地道である。街は古くて、狭くて汚ない。歴史を語る資格のない私にはあまり興味はない。アメリカに於ける日本の伊勢的、京都市的、奈良的臭いのするこの街は特にアメリカ的でない標本で全然気分が違ふ。

2月3日 Boston からアパラチャ山系の山越えをして本当の雪の中に入つた。何処でも Highway はちやんと除雪されている。Boston ではドーザーを、Cleveland ではグレーダーを使つていた。1尺足らずの雪だからまだ犬物の必要はないのであろう。道路標識の親切なのは California が一番良いが、夜間標識はアパラチャ山脈内の山道だつた。バスの照明光度が大きいからでもあろうが、まるで電灯でもつけてあるように速くまで反射鏡が反応していた。

University of Michigan のある Ann Arbor Technologist に4日着き、Association of Asphalt Paving Technologist から文献を買つた。その為になんざなんざまで来たわけである。

2月7日 Lansing に着いた。Michigan 州の首府である。こゝで積雪地の交通対策を覗るつもりである。

次は Chicago に行き、北上して Washington State に行き San Francisco に戻り3月中旬出帆の予定である。